

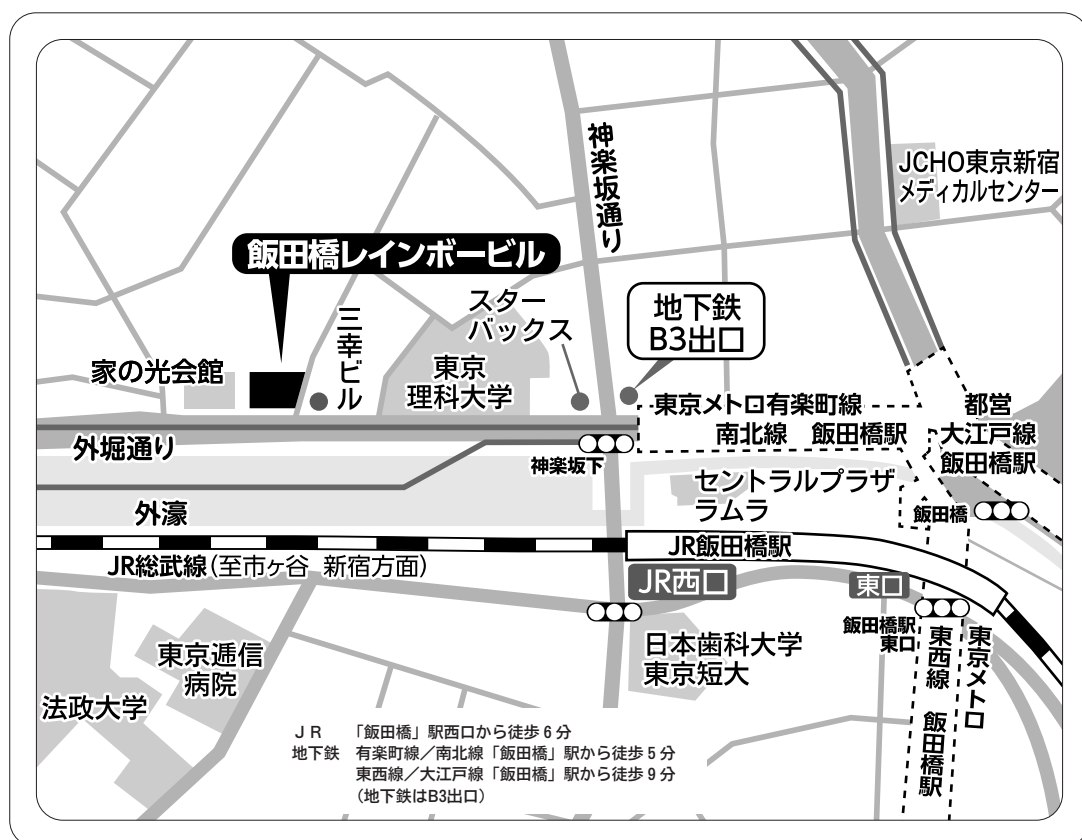
# 第 658 回

## 日本小児科学会東京都地方会講話会

### プログラム

日 時 2019年10月12日(土) 午後 2 時 00 分

場 所 飯田橋レインボービル 7 階大会議室



#### 次回以降開催予定日

2019年12月14日(土) 東京医科大学新病院 9 階臨床講堂  
2020年 1月11日(土) 東京医科大学新病院 9 階臨床講堂  
2020年 2月 8日(土) 飯田橋レインボービル 7 階  
2020年 3月14日(土) 東京医科大学新病院 9 階臨床講堂

#### 世話人

プログラム係 熊田 篤  
東京医科大学小児科 03 (3342) 6111  
(FAX) 03 (3344) 0643  
会場係 熊田 篤  
東京医科大学小児科 03 (3342) 6111  
(FAX) 03 (3344) 0643  
事務局 03 (5388) 7007  
e-mail: jpstokyo-office@umin.ac.jp

# 第 658 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内、厳守のこと。○印演者)

## 第 1 グループ 14:00—14:40

座長 千代反田 雅子 (東京医科大学小児科)

### 1) 膿胸の治療にウロキナーゼが著効した 1 例

○本間 丈博、曾根田京子、関根 朝美、蟹江 信宏、菊池 幸、伊藤 史幸、犬丸 淑樹、仁科 範子、岩崎 博樹、新井田麻美、大澤由記子、小保内俊雅

(多摩北部医療センター小児科)

発達遅滞のある 14 歳男子。30 日前の発熱と右胸痛は抗菌薬内服で軽快したが、同症状再発し来院。多呼吸と呼吸音減弱、炎症反応上昇、胸水貯留を認め膿胸と診断。抗菌薬と胸腔ドレナージにて改善傾向だったが、排液が停滞したため、ウロキナーゼによる胸腔内洗浄を実施した。小児の膿胸にウロキナーゼによる胸腔内洗浄が著効したため報告する。

指定発言 武田 憲子 (北里大学小児外科)

### 2) 学校心臓検診で発見された非持続性心室頻拍症の 1 例

○佐藤茉莉子、加藤 雅嵩、小森 暁子、阿部百合子、鮎沢 衛、森岡 一朗

(日本大学小児科)

14 歳女子。学校心臓検診で心室期外収縮 (VPC) 2 連発のため紹介され、ホルター心電図で 70 連発を認めた。その数日後に胸部不快感で救急車要請時に心室頻拍を認め、当院救命センターに搬入された。入院後も非持続性心室頻拍を繰り返し認め、非薬物療法を行って改善した。就学年齢での心室頻拍の管理に関して検討する。

指定発言 奥村 恭男 (日本大学循環器内科)

### 3) 上気道症状のため喉頭評価を要した乳児の臨床像

○相原 健志<sup>1),2)</sup>、阪下 和美<sup>1)</sup>、永井 章<sup>1)</sup>、中館 尚也<sup>1)</sup>、窪田 満<sup>1)</sup>、石黒 精<sup>2)</sup>

(国立成育医療研究センター総合診療科)<sup>1)</sup>、(同 教育研修センター)<sup>2)</sup>

乳児期早期の吸気性喘鳴やいびき等の上気道症状に対する精査の適否や評価時期の判断は難しい。過去 3 年間に、基礎疾患がなく生後 6 か月以下で喉頭評価を要した 21 例を後方視的に調査した。大部分は時間経過とともに改善を認めたが 3 例では緊急介入を要した。乳児期早期の上気道症状は基礎疾患を認めなくても慎重な経過観察が必要である。

## 第 2 グループ 14:40—15:10

座長 原田 涼子 (都立小児総合医療センター腎臓内科)

### 4) 良好な経過をとった間質性肺疾患 (ILD) 合併抗 MDA-5 抗体陽性若年性皮膚筋炎 (JDM) の 1 例

○真保 麻実<sup>1)</sup>、阿久津裕子<sup>1)</sup>、山崎 晋<sup>2)</sup>、森 雅亮<sup>2)</sup>、森尾 友宏<sup>1)</sup>

(東京医科歯科大学小児科)<sup>1)</sup>、(同 生涯免疫難病学講座)<sup>2)</sup>

抗 MDA-5 抗体陽性 JDM では急速進行性 ILD 合併による予後不良例が報告される一方、治療開始時に呼吸不全を伴わず良好な経過をとる報告も散見される。今回、特徴的な皮疹を契機に受診した ILD 合併抗 MDA-5 抗体陽性 JDM の 10 歳女児で、治療開始時に呼吸器症状なく、mPSS パルスとタクロリムスで良好な経過を得た症例を経験したので、考察を加えて報告する。

5) 学校検尿を契機に診断された全身性エリテマトーデス (SLE) の1例

○鶴井 萌子、山田ひかり、松本和華子、加藤 幸子、千代反田雅子、長尾 竜兵、山崎 崇志、西亦 繁雄、河島 尚志 (東京医科大学小児科)

化膿性膝関節炎の既往がある9歳男児。入院1か月前の学校検尿で尿蛋白・潜血陽性を指摘され当院受診。臨床症状および血液・尿検査、腎生検結果よりSLEおよびループス腎炎の診断となった。小児SLEは臨床症状に乏しくとも急速に重篤な臓器障害を来すことがあり、低補体血症や抗核抗体陽性の場合には特に鑑別として考慮すべきである。

6) 溶連菌感染後急性糸球体腎炎を合併したリウマチ熱の1例

○山岡 達宏<sup>1)</sup>、植田有紀子<sup>1)</sup>、麻生 敬子<sup>1)</sup>、橋本 淳也<sup>2)</sup>、濱崎 祐子<sup>2)</sup>、高月 晋一<sup>1)</sup>、松裏 裕行<sup>1)</sup>、小原 明<sup>1)</sup> (東邦大学医療センター大森病院小児科)<sup>1)</sup>、(同 腎センター)<sup>2)</sup>

皮疹、関節痛を伴う発熱を主訴に入院した4歳女児。Jonesの診断基準を満たし、リウマチ熱(RF)と診断した。血尿、蛋白尿、低補体血症を伴い、溶連菌感染後急性糸球体腎炎(PSAGN)を合併していた。RFとPSAGNでは原因となるA群β溶血性レンサ球菌の血清型が一致することが少なく、合併が稀であるため報告する。

休 憩 15:10—15:20

感染症だより 15:20—15:40 (講演:15分+質疑応答:5分)

座長 岩田 敏 (国立がん研究センター中央病院感染症部)

森野 紗衣子 (国立感染症研究所感染症疫学センター)

教育講演 (ii 専門医共通講習 医療倫理) 15:40—16:40 (講演:50分+質疑応答:10分)

座長 鹿島田 健一 (東京医科歯科大学小児科)

小児医療における倫理

林 令奈 (東京大学大学院医療倫理学分野)

小児医療は、児が生まれる前から生まれた後、そして成人になるまで(ときに成人になって以降も)様々な成長段階に応じた対応が求められる医療である。子どもは、Informed consentを行うには未熟であり、保護者である親などが代わりに意思決定に参加するという特徴がある。その際、子の最善をどう考えるのかが一番難しい判断となるだろう。医療技術の発展により、治療の適応、継続や中断の判断などの難しい意思決定場面は増えている。本講演では、こうした小児医療の倫理的課題について、実際の検討方法を含め事例と共に紹介する。

休 憩 16:40—16:45

第3グループ 16:45—17:15

座長 益田 博司 (国立成育医療研究センター総合診療部)

7) 体重増加不良を契機に発見された常染色体優性遠位尿管管性アシドーシス (dRTA) の1例

○西山 樹、丘 逸宏、武田 翔、丸山 和隆、大石 賢司、秋谷 梓、佐藤 真教、吉田 登、辻脇 篤志、櫻谷 浩志、鈴木 恭子、大友 義之 (順天堂大学練馬病院小児科)

9か月男児。体重増加不良(6.4kg)、Cl111mEq/L、代謝性アシドーシス、両側腎髄質の高エコー域を認め、dRTAを疑いフロセミド負荷試験を行ったが、異常はなかった。母親にdRTAの既往があり、神戸大学に遺伝子検査を依頼したところ、母子および無症状の6歳の姉にSLC4A1遺伝子変異を認め常染色体優性dRTAと診断した。文献的考察を加えて報告する。

8) ステロイド外用剤で医原性 Cushing 症候群となった 1 例

○鈴木翔太郎、岸田さなえ、冠城 祥子、市橋 洋輔、佐藤 武志、森田久美子、高橋 孝雄  
(慶應義塾大学小児科)

臀部巨大性色素性母斑に皮膚移植を行った 4 歳女児。創部にストロンゲストステロイド外用剤 1 日 5 g を連日塗布。術後 50 日から満月様顔貌と体重増加を認め、術後 70 日に ACTH・コルチゾール低値から医原性 Cushing 症候群と診断。早期に本症を疑えば外用中止も可能であったと考えられた。ステロイド外用剤の連用には注意が必要である。

9) 手足口病に伴う有熱時けいれんからけいれん重積型（二相性）急性脳症に至った 1 例

○堀米 顕久、吉本 優里、土田 裕子、山中 暖日、高砂 聡志、渥美ゆかり、長澤 純子、赤松 智久、兼重 昌夫、山中 純子、瓜生 英子、水上 愛弓、五石 圭司、七野 浩之  
(国立国際医療研究センター小児科)

2 歳女児。手足口病の発熱初日に約 10 分けいれんし、意識の清明化に 1 時間を要した。第 5 病日に二相目のけいれん群発と変容する異常言動を認め、MRI 検査とあわせ、けいれん重積型（二相性）急性脳症と診断した。本疾患の初回けいれんは重積しないことや異常言動を伴うこともあり、意識障害の回復に時間を要する場合は本疾患を疑う必要がある。

#### 第 4 グループ 17:15—17:45

座長 森 蘭子（森こどもクリニック）

10) *Streptococcus gallolyticus* subsp. *pasteurianus* による細菌性髄膜炎を発症した新生児の 1 例

○神山恵里佳、笠井悠里葉、齋藤 暢知、幾瀬 圭、岩崎 友弘、池野 充、久田 研、清水 俊明  
(順天堂大学小児科)

在胎 33 週 5 日、体重 2,150g で出生した 1 絨毛膜 2 羊膜双胎の第 1 児。早産児のため NICU で入院管理を行っていた。日齢 35 に発熱、活気不良および腹部膨満が出現し、血液培養と髄液培養を施行したうえで抗菌薬加療を行った。後に培養検査から *Streptococcus gallolyticus* subsp. *pasteurianus* が検出された。*S.gallolyticus* の新生児髄膜炎症例は稀であり文献的考察を加えて報告する。

11) 眼窩内浸潤を認めた乳児血管腫にプロプラノロールが有効であった 2 例

○町田 修、衛藤 薫、佐藤 友哉、南雲 薫子、西川 愛子、中務 秀嗣、伊藤 進、平澤 恭子、永田 智  
(東京女子医科大学小児科)

乳児血管腫は、新生児から乳児期に出現する良性腫瘍であり、自然退縮の傾向を示す。通常は無治療で軽快するが、眼周囲のものは遮蔽による視機能の影響や眼窩内への視神経への浸潤と影響を考慮して、積極的な治療介入を考慮する。眼窩内に浸潤した乳児血管腫 2 例の臨床像とプロプラノロールの治療効果に関して文献的考察を加えて報告する。

12) 多彩な症状を呈した先天性風疹症候群の極低出生体重児例

○猪狩 直之<sup>1)</sup>、熊坂 栄<sup>1)</sup>、永田 万純<sup>1)</sup>、来住 修<sup>1)</sup>、島 義雄<sup>2)</sup>  
(葛飾赤十字産院)<sup>1)</sup>、(日本医科大学武蔵小杉病院)<sup>2)</sup>

在胎 34 週 1 日、体重 1,300 g で出生した先天性風疹症候群の極低出生体重児例を経験した。頻回の輸血を要する汎血球減少、難聴、白内障、薬剤治療抵抗性の動脈管閉存症、尿崩症を合併した。頭部超音波検査では大脳基底核石灰化、上衣下嚢胞、lenticulostriate vasculopathy を認めた。文献的考察を加えて報告する。

## 【運営委員会だより】

1. 第 658 回講話会（2019 年 10 月 12 日）プログラム編成の骨子について報告があった。
2. 第 658・659・660 回講話会の教育講演および感染症だよりについて、講師と座長が確認された。
3. 運営委員の他県への転勤に伴い欠員に関し検討をしたが、今回、幹事会選挙があるので現状にて対応することとした。
4. 幹事会選挙に伴い、2 名に選挙管理委員会委員を委嘱することとした。
5. こどもの健康週間について、内容の確認、10 月プログラムに同封することが了承された。
6. 次期プログラム委員は、昭和大学小児科（2020 年 1～3 月）にご担当頂くこととした。
7. 東京都地方会の名誉会員推薦と合わせて、日本小児科学会名誉会員の推薦を頂くよう依頼があった。
8. 東京都地方会で作成する「緊急時を念頭にしたメーリングリスト」について、これまで 725 名（全会員の約 33%）の登録があったことが報告された。
9. 第 657 回講話会（9 月）の出席者は、265 名、ベビーシッタールーム利用者 5 名、前回講話会以降の新入会者は 11 名、退会者は 4 名であったことが報告された。

## 【演題の申し込みについてのお願い】

- ・ 動画が含まれる場合には、その旨を明示して下さい。
- ・ 原則として指定発言をつけて下さい。（共同演者から指定発言は頂けません）
- ・ 演題の締切は次のようになります。
- ・ 運営委員会にて抄録の修正をさせて頂く事もございますので、原則としてご了承下さい。

講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切
1 月	前年 11 月 30 日	2 月	前年 12 月 25 日	3 月	1 月 31 日
5 月	2 月 28 日	6 月	4 月 22 日	7 月	5 月 31 日
9 月	6 月 30 日	10 月	8 月 31 日	12 月	9 月 30 日

申込演題が規定数を上回った場合、さらに 1 回先になることがありますのでご了承下さい。  
その場合、事務局よりご連絡します。

## 【演者の先生方へのお願い】

- ・ 一次抄録は 160 字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の 200 字以内を厳守くださるようお願い致します。（原稿はワード入力にて e-mail にて事務局へお送り下さい。）
- ・ 出席した会員に発表の意味をより強く、明確に伝えるために、最後（または適切な時期）に Take Home Message（この発表から学ぶこと）を手短かな一文で記したスライドを付け加えていただくようお願い致します。

## 【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- ・ 自宅、勤務先の住所（プログラム送付先）等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。
- ・ 退会される場合も必ずご連絡下さい。お届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。  
東京都地方会事務局 e-mail : jpstokyo-office@umin.ac.jp / FAX : 03 (5388) 5193

## 【事務局よりご連絡】

- ・ 教育講演には日本小児科学会専門医新制度における専門医共通講習または小児科領域講習の単位が付与されています。  
受付開始から教育講演開始時間まで引換券を配布しますので、教育講演終了後から講話会終了までの間に引換券と聴講証とを交換して下さい。  
なお、引換券は当日限り有効です。  
また教育講演開始後に入場および終了前に退出された方には聴講証はお渡しできません。
- ・ こどもの健康週間パンフレットは 2017 年版と 2018 年版も在庫がございます。ご希望の先生は事務局までご連絡下さい。なお在庫の関係でご希望部数をお送り出来ない場合がございますことをご了承下さい。



## Presentation について

発表は Computer Presentation (Windows のみ可、Mac は不可) のみで受け付けます。Mac の PC 持ち込みによる発表はご遠慮下さい。Powerpoint 2000 以上で作成、Font 文字は Powerpoint 備え付けのみ。CD-R もしくは USB メモリーにて、第 1、2 グループ発表者は午後 1 時 30 分までに、第 3 グループ以降の発表者は午後 3 時までスライド受付まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルス check をお願い致します。

## 動画について

動画の発表にはトラブルが多いため、下記の方針をご理解いただきますようお願い致します。

- ① 一般演題での動画の使用はできる限りお控えいただくようお願い致します。
- ② 動画の使用が不可避と考えられる場合、ファイルのセーブ法などの注意事項がありますので、学会事務局に必ず事前にご連絡下さい。
- ③ ②の場合にも、動画の映写にトラブルがあったときに備え、静止画像のみで構成された代替パワーポイントファイルをご用意下さい。当日、動画の映写が不可能と判断された場合には、代替パワーポイントファイルを用いて、時間通りに学会を進行させていただきますことをご了承下さい。

## 〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設します。利用ご希望の方は、利用日の **10 日前**までに問診票をダウンロードし、必要事項を記載の上、事務局へ e-mail または FAX でお申し込み下さい。問診票は東京都地方会ホームページにあります。利用当日、お子様が好きな食べもの・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。キャンセルされる場合は、3 日前までにご連絡をお願い致します。連絡のないキャンセルの場合は、次回以降の利用をご遠慮頂く場合がございます。なお費用は学会が負担致します。

日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007/FAX 03-5388-5193  
e-mail : jpstokyo-office@umin.ac.jp

## オススメ書籍のご案内



### 最新感染症ガイド R-Book 2018-2021

編集：米国小児科学会  
監修：岡部 信彦  
判型：菊判  
頁数：1208  
価格：19,000 円 + 税

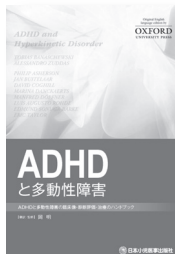


### 最新小児 皮膚疾患ガイド

編集：米国小児科学会  
監修：秀 道広、小林 正夫  
判型：菊判  
頁数：754  
価格：13,000 円 + 税

### ADHDと多動性障害 ～ADHDと多動性障害の 臨床像・診断評価・治療 のハンドブック～

翻訳・監修：岡 明  
判型：四六判  
頁数：186  
価格：5,000 円 + 税



### T式ひらがな音読 支援の理論と実践 ～ディスレクシアから 読みの苦手な子まで～

著者：小枝 達也  
関 あゆみ  
判型：B5 判  
頁数：96  
価格：3,000 円 + 税



日本小児医事出版社

〒160-8306 東京都新宿区西新宿 5-25-11 2F  
TEL : 03-5388-5195/FAX : 03-5388-5193

ホームページ

